

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

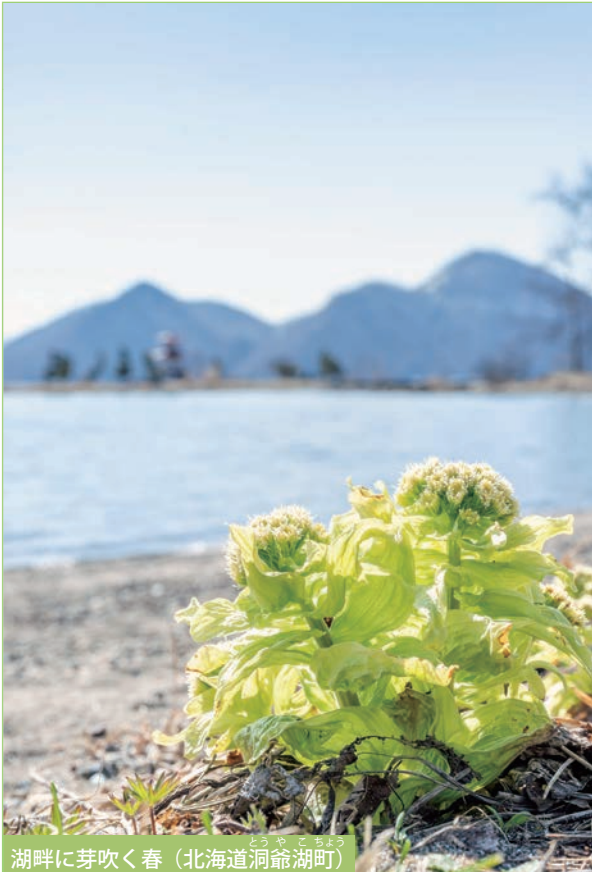
3353号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<https://www.zck.or.jp/>



湖畔に芽吹く春(北海道洞爺湖町)

コラム

農山村の活性化と研究投資

総合地球環境学研究所プログラムディレクター

しょうぼし
荘 林 幹太郎

農山村活性化のために官学共同での取組は多くの地域で実践され、さまざまな成果が報告されている。農山村地域の課題の多くはそれぞれの地域の経済社会情勢や自然条件などの「文脈」に依存することから、地域にある大学や研究機関が中核的な役割を果たしているケースが多い。

一方で、全国的な視点での農業農村の活性化のためには主として農水省の研究開発予算が、食料農業農村基本計画と連動しながら、重要な役割を果たしている。OECD(経済協力開発機構)が加盟国を対象に計測している農業部門支持政策予算のうち、個別農家ではなく農業部門全体に対する政策予算指標として「GSSE(一般サービ

スの水準の国際比較をすることが一般的であり、我が国は2022年から2024年の平均値が唯一12%を超えており、2番目のスイスの9%弱と比して極めて大きい。GSSEは農業インフラ整備保全、研究開発普及・検査・監督等に区分されており、日本のGSSEが加盟国で最大なのは、農業インフラの整備保全の数値が農業生産額比率10・5%とやはり他国を圧倒しているためでもある。しかしながら、研究開発普及についても我が国の公的負担は小さいわけではない。農業生産額比率1・3%は、OECD諸国の平均値1・1%を上回っており、スイス、ノルウェー、韓国、EUに次ぐ水準となっている。

国の研究開発投資はスマート農業導入、新品種開発 さらには環境負荷軽減対策に対しての相当程度の重点化が進んでいる。日本農業が直面する国際環境の変化や気候危機、さらには厳しい財政状況を考えると妥当な方針だろう。一方で、とくに中山間地域の農業、継続のための最大の課題ともいえる、農業用排水路の維持管理や畦畔の草刈りなどに対する研究開発投資の必要性は必ずしも、たとえば農水省によって毎年策定される「農林水産研究イノベーション戦略」でも、強調されているわけではない。自動草刈り機などは徐々に導入が進んでいるが、急傾斜地における草刈りや水路の泥上げなどに對するAIロボティクスも含めた新技術の導入に研究開発が果たすべき潜在的な役割を考えると、その水準を改善する余地は大きいと考える。

そのようなかで、中山間の喫緊の課題に対応するための研究開発への投資をより積極的に拡大するために必要なことを2点指摘したい。一つには、末端の用排水路の泥上げや草刈りなどに対する維持管理労力の軽減が農業生産性の向上に与える効果や、それに伴う多面的機能の改善効果が統計数値に表現されにくいことから、研究投資の必要性を説得的に示すことが困難だという構造的な問題があることである。この問題に対しては、「農業生産性」をより幅広くとらえる必要があり、たとえば現在OECDで検討が進んでいる、農業がもたらす正負の外部性を包含した「持続的農業生産性」の向上を計測することが重要となる。もう一つは、多面的機能支払交付金の一部を、用排水路の泥上げや草刈りに特化した技術開発に短期集中的に活用できないかということである。同交付金は自治体負担も含めて毎年約1000億円を交付している。たとえばこれの5%を研究開発に3年間充当するだけで150億円の予算を確保できる。あるいはそのような方式に合意する市町村が連合でそのような活用を農水省に対して提案することも検討に値するのではないだろうか。

もくじ

- 活動 地域農政未来塾修了式を開催－第9期生19名の町村職員が受講－…(2)
- フォーラム 一人ひとりが輝き続ける魅力ある長島をめざして＝鹿児島県長島町…(5)
- 情報 まちむらの魅力発信！…(9)
- 情報 町村がわから版…(10)
- 随想 今思うこと～東京オリンピックから町長選挙まで
千葉県神崎町長 椿 等…(12)

写真キャプション

洞爺湖町は北海道南西部に位置し、道内では比較的温暖で雪の少ない地域として知られている。火山活動によってできたカルデラ湖である洞爺湖が町の中心にあり、湖畔を散歩すると、雪解けとともに顔を出すフキノトウに出会うことがある。フキノトウは春の山菜として親しまれており、天ぷらなどにして味わうと、そのほろ苦い味わいが春の訪れを感じさせる。

全国町村会

地域農政未来塾修了式を開催 — 第9期生19名の町村職員が受講 —



▲ 棚野全国町村会長

修了式では、はじめに棚野全国町村会長が挨拶に立ち、「この塾を通じ、町村職員の皆さんが力をつけることは地域と日本の未来のためにも重要であると確信している。塾生同士が講義を通じて学んだことや互いの町村の課題について、真剣に語り合い議論を重ねたことは、普段の業務では経験することのない、貴重な機会であり財産であると思う。皆さんを快く送り出しているだけでいい町村長、ならびに役場の皆さまへの感謝の気持ちを深く胸に刻みながら、今後の業務に励んでいただきたい」と述べた。



▲ 生源寺塾長

福島大学名誉教授は「塾での学びは未来への投資である。この修了式は、終わりではなく、むしろ、これから成果を具体化していく出発点であるという認識を持っていただきたい。これからの充実した活躍、さらに期待をしている」と挨拶した。

続いて、来賓として臨席した渡邊毅農林水産事務次官は、「各町村で農業の担い手不足が喫緊の課題となっている中、塾生の皆さまは、それぞれの自治体において、地域の活性化に向け、熱意と危機感を持って取り組まれている。今後も、この塾での学びや人脈を糧として、地域の活性化により一層こ

全国町村会（会長・棚野孝夫北海道白糠町長）は、2月27日、全国町村会館で「令和7年度地域農政未来塾」の修了式を行った。「地域農政未来塾」は、地域の課題に対応した農業・農村政策を実践できる農政担当者等の養成をめざし、平成28年5月に開講したものである。9期目となる今回は19名の町村職員が受講、計7回の講座ならびに演習や現地研修、研究発表等すべてのカリキュラムを終え、修了式を迎えた。

活 動

尽力いただきたい」と挨拶した。

生源寺塾長から塾生に修了証書が授与された後、優秀論文受賞者の発表があり、最優秀賞には栃木県茂木町・山口菜央美氏が、優秀賞には、岩手県金ケ崎町・門間可純氏と岡山県美咲町・岡本拓哉氏が選ばれた。また、運営委員長の皆川芳嗣一般社団法人日本農福連携協会会長理事からベストプレゼンテーション賞の発表があり京都府久御山町・浪江隆仁氏が選ばれ、各受賞者に棚野会長から表彰状と記念品が授与された。

町村関係者として、村上昭正福島県小野町長と関口潤岩手県金ケ崎町農林課長が臨席。代表して村上町長が挨拶に立ち、「私の町では、いくつかの自治体に職員を送り出しており、来年度からは県内の自治体の間で相互に職員を派遣し、勉強させる取組も行おうとしている。そういったいろいろな経験が町を変えていくと思う。また、19名の塾生はこのつながりを活かし、今後とも塾生同士で行政の相談をしていただけあればありがたい」と挨拶した。

最後に塾生を代表して、茨城県東海村の菅原大樹氏が、「これから地域の課題に自ら気づき、学び、考え、提案し、実行することによって、私が未来塾で感化されたように、周りに良い影響を与えられる職員をめざして」と決意を述べ、閉会した。



▲修了式に臨む塾生



▲渡邊農林水産事務次官



▲主任講師：(右から) 小田切明治大学教授、榊田明治大学客員教授、荘林総合地球環境学研究所プログラムディレクター、中嶋女子栄養大学教授



▲皆川運営委員長



▲最優秀賞を受賞した山口氏（栃木県茂木町）



▲村上福島県小野町長

活動



▲塾生代表挨拶をする菅原氏(茨城県東海村)



▲ベストプレゼンテーション賞・浪江氏(京都府久御山町)



▲優秀賞・岡本氏(岡山県美咲町)



▲優秀賞・門間氏(岩手県金ケ崎町)



令和7年度 地域農政未来塾修了式

▲地域農政未来塾第9期を修了した塾生と全国町村会長、事務総長、塾長、運営委員長、主任講師、来賓一同

車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内
●ホームページアドレス <https://www.chisato-ag.co.jp/>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間: 祝日、年末年始を除く月~金 午前9時30分~午後5時)

TEL 0120-731-087 FAX 03-3519-7325

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
 - 集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。
- このご案内は概要を説明したものです。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン株式会社

[SJ23-05507 (2023.8.1作成)]

フォーラム



▲雲仙・天草を一望できる針尾公園展望所

鹿児島県 ながしま ちよう 長島町

一人ひとりが輝き続ける 魅力ある長島をめざして

1. 長島町の概要

鹿児島県の最北端に位置する長島町は、長島本島・伊唐島・諸浦島・獅子島の有人4島のほか大小23の無人島が点在しています。長島本島は、全長502mの黒之瀬戸大橋で鹿児島県本土とつながっており、開通から50年以上が経過しました。長島と伊唐島は伊唐大橋で、長島と諸浦島は乳之瀬橋でつながっており、唯一有人離島である獅子島は、諸浦島からフェリーに乗り、約20分で行くことができます。東シナ海・八代海・長島海峡等に囲まれ、北部一帯は雲仙天草国立公園に指定され豊かな自然に恵まれた風光明媚な町です。

長島は古くから人の居住が認めら

れ、多数の古墳が発見されています。室町時代までは肥後に属していましたが、島津氏の進出により1565年に同氏が支配し、江戸時代は薩摩に属し、長島郷となりました。明治22年の町村制施行により、長島郷は2村に分離され、やがて東町と長島町の町制をたどり、平成18年3月20日合併により、再び新「長島町」としてひとつになりました。

基幹産業は農業と漁業。農業は、海に面した海洋性の温暖な気候と特有の赤土を活かした鹿児島県のブランド産地指定も受けているハレイシヨを中心に、サツマイモ、地形を活かした露地栽培による温州みかんや甘夏などの柑橘類が盛んに出荷されています。畜産では、かねてより盛んな養豚、養鶏、生産牛・肥育牛に加え、生産から肥育





▲国内・海外でも食される「鱈王」



▲長島町のミネラルを豊富に含んだ赤土で育まれたバレイショ

・ふるさと納税でぐると一周夢追い
 フラワーロード整備
 安心して暮らせる土台づくりとして
 県道・町道の道路改良や港整備に取り
 組み、この20年間で生活環境は大きな
 変化を遂げました。平成19年4月に長
 島町ふるさと景観条例を施行し、町民
 が誇りの持てる潤いと安らぎのある特
 色あるまちづくりを提唱。その一環と

長島町は令和8年3月20日で町制施
 行20周年を迎えます。新長島町発定後、
 基本理念を「夢と活力があり、住民一
 人ひとりを大切にする福祉のまちづく
 り」と掲げ、各種政策に取り組んでき
 ました。

までを一貫して行う牛の一貫経営を行
 う農家も増えています。
 水産業は、恵まれた漁場と温暖な気
 候に支えられ魚類養殖を中心に日本一
 の養殖ぶり産地として発展してきまし
 た。現在では、危険発生を予防する高
 度な品質衛生管理システム「ハサップ」
 の認定を受け、日本中はもちろん海外
 への輸出を広げ、「鱈王」というブラ
 ンドの確立が図られています。その他、
 アオサやヒオウギ貝などの海面養殖も
 盛んに行われています。

2. 夢と活力のある町づくり
 ～夢づくりに～

・ふるさと納税の使途である、景
 観づくりに係る事業へは、令和6年度
 に6,870万円の寄附がありました。
 事業の開始から約20年、自治会や団体
 等が自主的に花壇管理を行う景観協定
 認定団体は150を超え、町内には四
 季折々の花々が咲き誇っています。
 また、道路では土木工事の際に多く
 出る、通常は廃棄される石を活用した
 法面の石積みを採用しています。地形

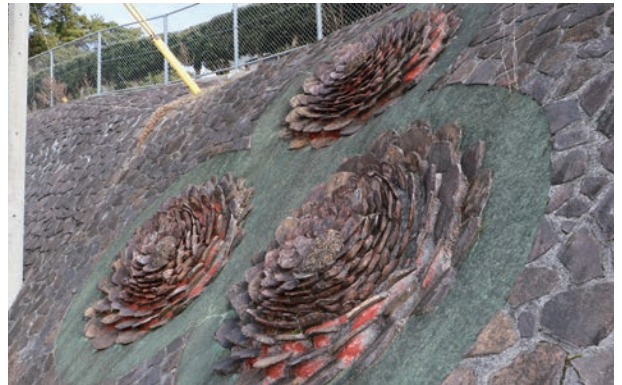
して島全体を景観地区ととらえ、「石
 積みと花」をテーマに長島を一周する
 国道389号、県道47号、379号の
 3路線を重点箇所として、国道・県道
 沿いを花壇でつなぐ「ぐるっと一周フ
 ラワーロードづくり」事業を展開しま
 した。ふるさと納税の使途である、景
 観づくりに係る事業へは、令和6年度



▲町内には四季折々の花々が咲き誇ります

・夢追いかくわく街道
 これまでの見て楽しむフラワーロー
 ドに、「光」「香」「メロディー」の
 効果を加えた街道づくりを進めていま
 す。「光」では、道路上に等間隔に反
 射鏡を設置し、交通事故防止としては

上無理な場所や私有地を除き、法面を
 施す部分は原則石積みによることとし
 ています。除草の手間が省けるメリッ
 トがあり、長島の観光のポイントのひ
 とつになつている石積みの段々畑の風
 景と調和を図る狙いもあります。石積
 みは石の形や作る人でさまざま姿を
 見せ、町花の水仙やコスモスなどの石
 の花も町内に咲き誇っています。



▲石の花も開花

フォーラム

▲音符マークからスタート



もちろん、反射鏡の光でも人々を魅了しています。キンモクセイやニオイバシロなどの香木の植栽で「香」の効果、「メモロディー」では、町の西岸部を縦断する国道389号線に道路に音階などの溝を切り、自動車などを一定速度で運転することで、乗車中に音楽を楽しむことができるメモロディーラインを設置しました。どんな音楽が聴こえるかは通ってからの楽しみです。

3. 夢と活力のある町づくり
〜活力あるまちづくり〜

町では、1年を通してさまざまなイベントを実施し、観光イベントによる交流人口の増加を図っています。町の特産品であるじゃがいもの掘り取り体験が目玉の「じゃがいも祭り」。美味しい海の幸を堪能でき、漁船パレードや模擬入札が体験できる「長島おさかな祭り」。2年に1度開催される「な



▲町民のアイデアと努力が詰まった造形物



▲祭りを盛り上げる漁船パレード

がしま造形美術展」では町民が一丸となって、自然の身近な素材(スギや竹など)や廃材(空き缶、ペットボトルや貝殻など)を利用して、ひとつの造形物を制作します。制作される造形物は、ユーモアたっぷりの作品から細部までこだわったリアリティあふれる作品が並び、見物客を魅了します。各自治会や学校、PTA等が力を合わせ、ひとつの作品を作り上げる、まさに地方自治の原点がここに詰まっています。

4. 福祉の充実

町民の暮らしを支える福祉にも力を入れています。平成19年4月に長島町福祉事務所を開設しました。全国の町村では4番目、九州の町村では初めてのことです。普段から町民とのふれあいを持つ町職員が対応することで、手続きスピードの向上だけでなく、「身近できめ細かな行政」が実現されています。この他、県のがこしま材利用推進事業(木造公施設整備事業)を活用し、県産木材をふんだんに使った診療所を新築しました。木のぬくもりで心安らぐ医療拠点として、町民の健康と命を守っています。また、離島獅子島には、こどもの孤立解消のために第三の居場所「スマイルアイランド」を整備しました。これは、公益財団法人



▲笑顔と学びと安心のスマイルアイランド

B&G財団の事業の一つであり、学校が終わった後に、こどもたち達を見守り、生活・学習習慣を身に付けていくことはもちろん、他者とのコミュニケーションや好奇心を養う場として、離島獅子島の強い味方となっています。このように、町民の暮らしのそばに「安心」と「笑顔」があふれる町づくりを進めています。

5. 今後の将来像を見据えて

・長島町版地方創生への取組
町では、地方創生の取組も前向きに実施してきました。長島町の地方創生が大きく動き出したのは、平成27年4月。総務省から地方創生人材支援制度

フォーラム

の第一号である井上貴至氏の派遣でした。井上氏は、同年7月に副町長(地方創生担当)に就任すると、地域の課題をとらえ、様々な施策を展開しました。中でも、全国の注目を集めた制度である「ふり奨学金制度」は、当町独自の政策であり、ふるさと納税などを財源とし、奨学金を活用した卒業生が、Uターンして帰ってきた際、その奨学金と利子相当分を当町が補填する制度です。この制度は、日本一の養殖、ふり産地である当町に、出世魚で回遊魚のふりのように、「成長して帰ってきてほしい」という願いが込められており、令和7年10月現在で、延べ400人以上の子供たちが活用し、60人を超える本町出身者が、学びを終えて長島に帰り活躍しています。このような政策効果もあり、人口戦略会議が公表した、若年女性人口の減少状況をもとに、地域の存続可能性を分析した報告書「増田レポート」では、全国1729自治体の4割以上が「消滅可能性自治体」とされ、当町は10年前に公表された同報告書で、「消滅の可能性がある」と指摘されましたが、令和6年4月に公表された最新のレポートでは、消滅可能性自治体からの脱却を果たしました。

さらに、令和7年度は、国が進める「地方創生伴走支援制度」の活用が始まりました。この制度は、各府省庁動

務の国家公務員が、これまでの経験を活かし副業的に地方創生に携わり、課題を抱える中小規模の自治体に寄り添い、地方創生に関する「伴走支援」を行うものであり、当町は第一期市町村として、全国の自治体60市町村に選ばれ、3人の支援官とともに、若年層の流出や所得安定、獅子島架橋の課題解決など町の将来に向けた歩みを進めております。

・獅子島架橋実現へ

長島町は、これまで黒之瀬戸大橋や伊唐大橋といった大橋の開通で、経済が大きく発展し、さまざまな恩恵を受けてきました。次は、獅子島島民や長

島町の悲願である「獅子島架橋」の実



▲獅子島架橋のイメージ



▲獅子島にある黒崎空中展望所は、まるで空中を散歩

現です。橋で県本土とつながることで、経済の発展はもちろん、医療や災害などあらゆる場面で、県本土と同じ暮らしを送ることができます。町では、平成6年に「獅子島架橋建設促進期成会」を発足し、国や県への陳情活動を行っています。事業化に向けては、平成24年から「夢追い獅子島架橋基金」を設け積立を開始し、令和7年度で21億円に達しました。離島振興法の改正で、獅子島を含む離島には「架橋促進」の考え方が盛り込まれ、架橋促進の機運が高まっている中、基礎調査が実施され、架橋に向けて本格的に動きだしています。

長島町 総務課 秘書広報係

活用してみませんか？町村専用ページ「町村.com」

<https://www.zck.or.jp/choson/>

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁等の政策情報を随時提供しています。ぜひご利用ください。

「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。

ログイン時のユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ(平成18年9月27日付)しております。お問い合わせは、全国町村会広報部(kouhou@zck.or.jp)までお願いいたします。

詳しくは
Webへ



お問い合わせは
こちら



まちむらの魅力発信!



全国926町村には、それぞれにその場所ならではの輝く資源があります。そのまち、そのむらが、今発信したい魅力を紹介していきます。



信仰の対象であるとともに、景勝地としても知られる火口湖・御釜を擁する蔵王連峰。その東麓に広がる蔵王町には、火山活動によって形成された地形と動植物、そして火山とともに暮らす人々の歴史があります。2025年1月、それらが貴重な地形・地質遺産、自然遺産、文化遺産であるとして、**町全域が日本ジオパークに認定されました。**認定後1年で、その情報発信施設である「蔵王ジオパークセンター」の来場者は70000人を超え、修学旅行の受け入れも増えています。

町内の学校では、主に総合的な学習探究の時間を使って、町の成り立ちや大地の恵みともいえる温泉、火山麓扇状地での酪農、地形を活かした果樹栽培、噴火に備えた砂防工事など、地域と火山との共生について学びを深めています。



火口湖・御釜。この周辺では、初夏に「高山植物の女王」コマクサが見られる。

景 観

火山とともに生きる町
日本ジオパークに認定

宮城県
蔵王町の
蔵王ジオパーク



酒米「山田錦」を栽培するため
土壤改良から取り組んだ。

今後、町でも地域一体の取組を後押しして地元の住民、農業法人、酒蔵等関係者を巻き込み永平寺テロワールを推進し、農家民泊、農業体験、座禅体験など、集落活性化のさまざまな取組へと波及していくことを期待しています。

曹洞宗の大本山永平寺がある永平寺町は、県内最大の河川・九頭竜川の中流に位置し、清流が育む美味しい農作物や日本酒でも知られています。

2000年以上町内で日本酒を醸造している吉田酒造(株)では、地元の田んぼで栽培した酒米を原料とし、風土を生かした酒づくりを行う「**永平寺テロワール**」を掲げています。テロワールとはフランス語で、ワインづくりなどで土地や風土の個性が現れることを意味する言葉。吉田酒造(株)は香港の総合商社との合弁事業で新会社シンフォニー吉田酒造(株)を設立するなど、海外輸出にも取り組んでいます。

酒

町内産の酒米でつくる
日本酒を世界に発信

福井県
永平寺町の
永平寺テロワール

篠栗町は福岡市内まで車やJRで20分という利便性と、町の7割が山林という緑豊かな自然環境を兼ね備えた町。「篠栗四国八十八カ所めぐり」のお遍路さんでも知られています。

一方、地域ぐるみで有機農業の拡大を目指し、町は2025年4月、「**キャベツ・リーオーガニックビレッジ**」を宣言。町の試験圃場での有機農業の研修会、有機野菜の販売会、有機野菜の学校給食での利用などに取り組んでいます。

品目はニンジン、ジャガイモ、玉ねぎ、さつまいもなど。一般的な農法に比べて手間がかかりますが、安全な野菜を地産地消できれば自然災害への備えにもつながるため、町では認証制度も検討中。26年には食育の一貫として、町内5校の小中学校の学校給食で、同日に同じ有機野菜を使った献立を提供することも計画しています。



試験圃場での研修会には若手の農家が多く参加。販売会も盛況。

食

学校給食などに
地元の有機野菜を利用

福岡県
篠栗町の
オーガニックビレッジ



農産物を集約して販売、ふるさと納税返礼品開発…稼げる「村農業公社」目指す 赤字脱却へ意気込み 南阿蘇村

(熊本県南阿蘇村)

南阿蘇村は2021年に設立した一般社団法人「村農業みらい公社」の収支や運営の改善に乗り出す。新規就農者の育成や耕作放棄地の活用で成果を挙げてきたが、農産物の販売や農作業受託などの収入が伸びず、直近2年の営業損益は赤字。ふるさと納税の返礼品開発といった新規事業で収益を上げ、自走できる「稼げる公社」を目指す。

村は21年10月、資本金3千万円を出資して公社を設立した。国の地域おこし協力隊制度を活用し、隊員には活動終了後に村内で就業する意思のある人を採用。耕作放棄地を利用して技術を身に付けてもらい、「就業増」と「放棄地解消」を目指している。これまでに活動を終えた10人のうち9人は村内で就業。残る1人も本年度中に村内で農業を始める。このほか、隊員8人が活動中だ。農地仲介では、公社が村内の農家らから21・6ヘクタールを借り受けるなどして、11・3ヘクタールを公社が利用。残る10・3ヘクタールを元隊員や一般営農者に貸し付けるなどしている。

村は21〜24年度、公社に対し、拠点とする旧岡井小の改修費や農機具の購入費、隊員の人件費など2億1475万円を支出。うち、隊員の活動関連費は1億990万円が全額国の交付税措置の対象となる。

ただ、隊員が生産した農作物の販売額や、そばの収穫や農地の草刈りといった農作業の受託収入などは伸び悩んでいる。村農政課は「隊員は農業の素人で農産物の収量は上がりにくい」と説明する。

公社の24年度の純損失は248万円。村議の一人は「村の農業関連事業の中には、財政の厳しさを理由に補助を終えたものもある。公社には多額の税金を投入しているが自助努力は十分なのか」と指摘する。

赤字の解消に向け、村は公社に「商社のような役割を持たせる計画を描く。村のふるさと納税の返礼品を開発したり、販路開拓へ公社が村内の農産物を集約して販売したりすることを想定している。1月には公募型プロポーザルで、公社の経営改善支援業務の募集を始めた。

太田吉浩村長は「村の支援に頼らずに黒字運営できるよう自立させたい。3年くらいで形にする」と意気込む。一方、村職員の一部は「公社は就農者育成や耕作放棄地の解消といった、稼げない部分をかばっているために設立された。そこがおそろかにならないだろうか」と気をもむ。(中島忠道)

(熊本日日新聞・2026年3月8日)

九州初の電子投票、宮崎県新富町の町議補選で導入 集計作業22分、職員は普段の3分の1

(宮崎県新富町)

九州初、全国でも2例目となるタブレット

ト端末を使った電子投票が、1日投票開票の宮崎県新富町の町議補欠選挙で導入された。有権者は投票所に設置された端末をタッチペンで操作して投票。約3700票の集計作業は22分で終わった。町運営によると、期日前投票も含めてトラブルなくスムーズに進んだ。導入を検討する多くの行政関係者が視察に訪れ、投票開票の流れを食い入るように見守った。

町内で最も有権者が多い投票所には6台のタブレット端末が並んでいた。訪れた人たちは画面の「投票を開始」にペンで触れ、意中の候補者を選ぶと「投票する」を押し、自動音声で「投票が完了しました」と退出を促した。一連の操作はわずか10秒ほど。見やすい画面、簡単な操作で時間の短縮につながっていた。

町選管の比江島信也事務局長は「有権者の意思を正確に反映できる。(投票用紙に)文字を書きにくい高齢者、子どもを抱いて来場する人らの利便性向上も狙いの一つ」と説明した。当選させたい候補がない場合は「投票せず終了する」のアイコンが押せる。いわゆる「白票」を投じることもできる。

投票を終えた無職男性(84)は「簡単明瞭。これからも続けてほしい」と話した。不正やデータ消失に懸念がないかを女性会社員(38)に尋ねると、「それは紙でも起きてますよね」と意に介さない様子だった。

午後6時に投票が締め切られると、選管職員がタブレット端末から記録媒体のUSBと、バックアップ用のSDカードを取り出した。保管ケースに収めて開票所に移動した。


開票所の体育館には町内14カ所から集まったケースが並んだ。開票する職員は12人で普段の3分の1。集計係はUSBをパソコンにつなぐポートに差し込み、投票記録を読み取った。

時間のかかる疑問票の確認作業はなくて済む。ただ、不在者投票は従来通りの紙を使ったため、届いた60枚は職員が数えて合算した。開票結果の確定発表までは42分。2018年の同じ補選は約2時間かかった。タブレット端末を使った電子投票は、24年に大阪府四條畷市の市長選挙で実施して以来になる。九州では福岡県粕屋町が今夏の市長選で取り入れる方針。香川県善通寺市も導入する予定だ。

課題は費用。新富町がシステム業者に支払った委託料は約1150万円。委託料だけで人件費を含めた、従来の補選のコストを上回っている。今回は国の特別交付税を活用して数百万円に抑えられる見通し。

大分県選挙管理委員会によると、今のところ県内で電子投票を予定している自治体はない。ある市の担当者は「費用負担がネックになっている」と語った。


(大分合同新聞・2026年3月6日)



47行政

本コーナーの記事は施策立案にも役立つ47行政ジャーナルの許諾を受けて掲載しています。

<https://47gyosei.jp/>





さまざまな「集いの場」を
演出いたします

広さと設備が多様な大ホールと、
3つの会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに
幅広くご利用いただけます。



和・洋食のレストランも
お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



レストラン「ペルラン」



和食処「さいかち」

客室のご案内	SINGLE ROOM	シングル 119室	DOUBLE ROOM	ダブル 12室	TWIN ROOM	ツイン 18室
	和室もございますのでお問い合わせください。 ※市町村職員共済組合等の宿泊施設利用助成券がご利用いただけます。					



ご予約・お問い合わせ

全国町村会館 (代表)
TEL.03(3581)0471
FAX.03(3581)0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号

会議・宴会予約
TEL.03(3581)6767
FAX.03(3581)6324

WebサイトURL <https://www.zck.or.jp/kaikan/>

●全国町村会館
へのアクセス

- ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
- ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
- ・タクシー東京駅から約7分
- ・東京モノレール「羽田空港」より「浜松町駅」経由「有楽町駅」乗り換え、東京メトロ有楽町線「永田町駅」下車
- ・京成特急スカイライナー「成田空港」より「青砥駅」経由「押上駅」乗り換え、東京メトロ半蔵門線「永田町駅」下車



随 想

私が小学校4年生の時開催された東京オリンピック。マラソン競技で裸足のアベベが優勝し、ゴール後も淡々と整理体操をしていた姿が印象的でした。

2位で戻ってきた日本の円谷幸吉選手が、イギリスのヒートリーにゴール直前で抜かれ銅メダルになりましたが、陸上で唯一のメダルであり、日本中が感動したのを覚えています。

4年後のオリンピックで大きな期

全体2位の成績で通過しましたが、決勝では6位となり千葉県大会には行けませんでした。ああ、これで終わりかという寂しい気持ちと、悔しさから、進学しても陸上を続けたいという思いが募りました。

そして、高校生になり陸上部を見学した際、後にマラソンの増田明美選手を育てた名伯楽の滝田先生がおられ、即入部を判断しました。入部してから分かりましたが、ここは私のようにただ陸上が好きで素人の集

いましたが、どうしても我慢できずに、体育会の日本拳法部という武道系の部に入りました。

これが私の性に合っていたらしく、無我夢中になって稽古に励みました。上下関係の厳しい部でしたが、本当に楽しく4年間を過ごすことができました。当時は関東で2段が25、6人、3段ともなると2、3人しかいませんでしたので、卒業するまでに黒帯を締められるかなと思っていました。何とか2段まで取る

ました。

退職後、千葉県の土木事務所に勤めました。地元の有志から町議会選挙に出ないかと言われ、たった2カ月しか勤務せず選挙に臨むことになりました。

元役場職員で知名度はありませんので、厳しい戦いになると覚悟していましたが、結局無投票で初当選することができました。議会では今までいた執行部の向かい側に対峙して座るといふ事で何か落ち着かないものでした。

議員任期もあと2カ月となったころ、町長が病気で急逝され選挙となりました。また有志から推薦があり出馬することになりました。ベテラン議員2人との戦いですので、厳しい選挙戦になると思っていました。皆さんのご支持をいただいて当選することができました。

私のように、いつの間にか「なっってしまった」という人間にとっては、選挙は必ずしも「なりたい者」になれるわけではなく、何か目に見える力が働いて決まってゆくのではないかと考えてしまいます。

現在2期目ですが、最初に出馬したときのスローガン「すべては町民のために、すべては町のために」を常にこのころにとめ、何をやる時にも迷ったときは、この言葉を復唱し判断基準としています。



今思うこと〜東京オリンピックから町長選挙まで

千葉県神崎町長 椿 等

待を背負った円谷幸吉選手は、3年後に遺書を残して自ら命を絶しました。この時私は中学2年生でしたが、同じ長距離をやっていたせい、より衝撃的なものを感じました。

この頃になると、だんだん練習の成果も出てくるようになり、3年生で迎えた地区大会では2千メートル走で7周目まではトップでしたが、力尽きて3位になってしまいました。

その後開催された、千葉県北部地域の「北総陸上大会」では、予選を

まりではないというところでした。同級生といえども全国や県大会で優勝している、サラブレッド級の選手集団でした。そのため、ハードな練習により体調をくずし、1カ月以上の入院の後2年生の5月の連休直前には登校できるようになりましたが、結局、体調が戻らず2年生の秋には陸上部を辞めることになりました。

その後、大学の建築学科に進学することになりました。私は、医師から激しい運動は控えるよう言われて

ことができ、大変充実した大学生活を送りました。

卒業後、地元の建設会社に就職しました。公共施設の工事が多く、神崎町役場庁舎の新築工事の監督をすることになりましたが、数年後、役場で土木技術者がいないので来ないかという話があり、自分の作った役場に勤めることになりました。26歳のときです。それから34年間役場にお世話になり、町づくり課長や会計管理者を務め、60歳で定年を迎え